

区分		事業実績		事業計画					
年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
目標・実施項目・実施結果・事業内容	川上	目標	近隣の森林組合からの原木価格の協議と価格の決定	実施計画	合併する森林組合の体制を確認し、引き続き連携体制を維持する。 継続して各生産森林組合から原木を買い取る。	実施計画	近隣の森林組合から原木の買い取りを開始する。 継続して各生産森林組合から原木を買い取る。	実施計画	近隣の森林組合からの原木買い取りを実施するとともに、地域内で発生した支障木などの買い取りを開始する。 継続して各生産森林組合から原木を買い取る。 新たに森林施業を進めるための体制を検討する。
		実施項目	・原木供給量に対する再度確認 ・流通価格の確認と価格交渉 ・非FIT材の取扱いの有無確認						
		実施結果	近隣の森林組合から、200～300 m ³ /年の原木供給について再度合意を得た。 C材流通価格を確認し、供給価格相談も進めた。 森林組合所有の製材工場で発生する製材端材の買取も可能という承諾を得た。						
	川中	目標	薪割人材の確保	実施計画	地元養護学校との薪割連携体制を維持するとともに、新たな薪割人材の発掘・確保を進める。 また、定期的な薪割体験会を実施する体制を維持し、地域内連携を強化する。	実施計画	熱利用候補施設への薪供給を目的とした薪製造及び乾燥を実施する。 また、地元養護学校と連携した薪割作業も継続的に実施するとともに、地元高校を含めた他組織との連携体制を構築する。	実施計画	熱利用候補施設へ、キャンプ利用を含めた薪供給を開始する。 薪の増産に向けた検討を進める。
		実施項目	・地元高校との協議 ・地元養護学校との協議 ・薪割体験会の実施						
		実施結果	地元養護学校との薪割体験会を実施し、次年度以降の定期的な実習について地盤を構築した。 地元高校との連携地盤は引き続き進める。						
	川下	目標	薪ボイラー導入コストやシステムの提示	実施計画	熱利用候補施設への薪ボイラー導入に向けて、事業性を担保した運用方法を検討する。	実施計画	熱利用候補施設への薪ボイラー導入に向けた試算及び基本設計、実施設計を進め、環境省補助事業の活用に向けて準備する。	実施計画	熱利用候補施設へ薪ボイラーを導入し、運用を開始する。
		実施項目	・熱利用候補施設を現地確認しシャワー室を対象にした薪ボイラー導入システムを指定管理者へ提示 ・導入コストを試算 ・ESCO事業予定者との協議						
		実施結果	熱利用候補施設の指定管理者からの導入の承諾を得られたが、ガス使用量が想定より少ないことが分かった。そこで、今後の展開として幅広い薪利用を検討する。また、導入費用と薪の消費量を試算し、関係者間で事業の規模感を共有し熱供給サービス事業への協議を開始した。						



各年度の課題・事業方針	成果・課題	薪製造の連携体制は構築できたが、事業性を担保できるだけの薪製造地盤の形成には至らなかったため、今後も薪割人材の確保については継続的に進める必要がある。 また、薪ボイラー導入に向けた熱需要の確保が必要であり、熱利用候補施設を中心とした熱利用先を探索する。	R6 ゴール設定・事業方針	・薪製造の連携体制の強化 ・【継続】薪割人材の探索と確保 ・近隣の森林組合との連携体制の確認 ・新たな熱利用先の発掘と薪ボイラー導入に向けたコスト試算と運用方法の検討	R7 ゴール設定・事業方針	・【継続】薪製造の連携体制の強化 ・【継続】薪割人材の探索と確保 ・近隣の森林組合との連携体制の維持 ・原木買取を開始し、薪製造及び乾燥 ・【継続】薪ボイラー導入に向けたコスト試算と運用方法の検討	R8 ゴール設定・事業方針	・熱利用候補施設への薪ボイラーの導入、運用 ・薪の安定供給 ・地域内連携による薪割作業
	各年度の課題・事業方針							